

球磨村復興計画（案）に対する意見募集の結果について

資料-2

令和3年3月4日 球磨村 ふるさと創生課

球磨村復興計画（案）について意見募集したところ、村内外から多くのご意見をお寄せいただき、ありがとうございました。寄せられましたご意見の概要と、それに対する村の回答について、以下のとおりお示しします。

意見募集期間：令和3年2月10日（水）～令和3年2月28日（日）

提出数：25件

ご意見の取り扱い

反映	：寄せられたご意見の趣旨を踏まえ、内容に反映するもの	5件
参考	：今後の取組の参考とさせていただくもの	19件
補足	：寄せられたご意見について補足説明を行ったもの	8件
既掲載	：意見の趣旨が既に案に掲載されているもの	13件
その他	：質問や感想、案以外への意見	19件

No.	取扱	意見概要	ご意見に対する回答
1 はじめに（P1）～3 復興に向けた村民意向（P16）			
1	その他	アンケートの回収率が低い。住民ひとり一人の気持ちを拾い上げる計画を期待する	今後、被災者への詳細なヒアリング等を予定しており、計画の推進に向けても住民と意見交換しながら進めてまいります。
2	その他	回収率が低い。被害を受けた住民と受けていない住民で集計結果をまとめないと、詳細な結果は分からない。	
3	その他	各団体へのヒアリングを実施し、良いアドバイスを拾い上げて欲しい	
復興計画にある様々な事業の実現に向けて、各団体に対しヒアリング等を通してアドバイス等をもたらうだけでなく、協働によってより良い事業の実現を目指していきます。			
5 復興に向けた計画体系 5-2-1【くらし】被災者の生活再建（P21～P23）			
4	補足	年度内にどこに、どのような宅地造成が出来るのか、計画を示して欲しい。高台でも山の中には住みたくない。	復興計画では大まかな候補地を示しており、より具体的な立地等（嵩上げの高さ等）については、今後示される球磨川水系緊急治水対策プロジェクトと連携し、早急にお示しできればと考えています。
5	その他	発災当時から安全な宅地の確保が求められるのが分かっていたにも関わらず、3年もかけて行うのか。	安全な宅地の確保においては、今後示される球磨川水系緊急治水対策プロジェクトと連携し、出来るだけ早くに整備できるよう努めてまいります。
6	既掲載	仮設住宅の住民のケア、資金的な問題、コミュニティの維持、近くに相談できる人がいるか、買い物が可能か等心配が尽きない。	被災者の見守りや心身のケア、生活再建に向けた支援など、ニーズに合わせた支援を行ってまいります。
7	参考	被災した渡小学校、老朽化した球磨中学校の建替えのタイミングで、上の原に移転してはどうか。	村内の小中学校については、子ども達の成長過程に応じて教育環境の充実や、安全に安心して学べる環境整備のため、統廃合を含めた検討を進めてまいります。立地についても、今後検討を進める上で参考とさせていただきます。

No.	取扱	意見概要	ご意見に対する回答
8	既掲載	高齢者にとって総合運動公園のバス停までの上り下りが大変である。	村民の生活に欠かせないコミュニティバスについては、ニーズに合わせてより良いものとなるよう復旧・復興に応じて見直しを進めてまいります。
9	既掲載	早期のハイスクールバスの復旧。通学面での支援が必要。	
10	既掲載	移動手段として、コミュニティバスの整備を試みて欲しい。地元乗り合い移動サービスを企画して欲しい。	
11	既掲載	蒸気機関車を復活させて欲しい	JRの早期復旧については、流域市町村と連携して要望等を継続していきます。
12	参考	ハザードマップ上危険地域に村営住宅を建設する際に、役場はしっかり説明すべきである。	災害公営住宅をはじめ、村営住宅の建設場所については、ハザードマップの情報を元に、安全な立地での建設を検討してまいります。
13	参考	小学校付近の嵩上げは、河川工事、堆積土砂の除去の中で出る土砂を使って埋め立てしてはどうか。	ご意見のとおり、河川工事等で出た土砂については、今後想定される治水対策や嵩上げ等に有効活用できると考えております。
14	参考	人口減少の歯止めのためには、嵩上げ、交通インフラでの道路整備、洪水防止の治水対策に早急に実施すべきである。	人口減少の歯止めのためには、ご指摘のありました安全な宅地の確保やインフラ整備など、早急に対策を実施する必要があると認識しており、スピード感を持って取り組んでまいります。
15	その他	仮設入居期間が2年となっている。一方安全な宅地の確保は令和5年までとなっている。令和4年以降はどのように考えているのか。	仮設住宅の入居期限は原則2年となっておりますが、宅地の確保等に時間を要することも想定されるため、必要に応じて延長も検討していきます。
5 復興に向けた計画体系 5-2-2【つなぐ・きずな】地域コミュニティの再生と環境に配慮した地域づくり（P25～P26）			
16	参考	災害時に避難できる場所としての公民館の建て替え（鉄筋コンクリート構造）が必要である。※部地区公民館	各地区の公民館の再建については、地域別協議会などを通じて検討していく必要があると考えています。また、避難場所についてもハザードマップの情報を元に、安全な避難場所を確保していく必要があると考えています。
17	補足	保健センターはどの地域で計画されているのか。福祉施設の再建は一勝地になっているが、それは千寿園を指すのか。	保健・福祉・医療の拠点整備については、具体的な再建場所は決まっていません。現地での再建を前提に関係機関と協議してまいります。
18	その他	太陽光パネルを近江原、さくらドームの斜面に設置する。避難所の機能を備えた体育館を建設して欲しい。	今回の豪雨災害は、地球温暖化等の影響であると考えられ、被災地となった球磨村だからこそ、環境に配慮した村づくりを進めていく必要があると考えています。
19	補足	小規模水力発電による各施設、各家庭への電気供給、豊富な水の飲料化ができれば災害時だけでなく、雇用にもつながる	太陽光発電に加え、小水力発電など、再生可能エネルギーの推進と、災害時にも活用できる電力の確保など、様々な可能性を検討してまいります。
20	参考	住み続ける高齢者の生きがいや元気を取り戻す、伝統食などの取り組みを行ってはどうか。	生きがいや元気を取り戻す取り組みとして参考とさせていただきます。また、ご提案のありました、「みんなの台所」のような場所として、今後整備を進める防災拠点には地域住民が集まれる施設としても整備を進める旨表現を修正しました。
21	反映	「みんなの台所」のような場所と設備を備えた施設を整備し、伝統食の加工などに活用してはどうか。	

No.	取扱	意見概要	ご意見に対する回答
5 復興に向けた計画体系 5-2-3【にぎわい】球磨川と共生する村の自然を活かした観光村づくり（P27～P28）			
22	参考	球磨村または球磨川を題材にした写真コンテストを実施してはどうか、認知や交流につながるのではないかと。	復旧や復興の過程や球磨村の美しい景観を村外に発信していくことは、この災害を風化させないことだけでなく、球磨村の発展にも欠かせないことだと考えています。ご意見のあった写真コンテストを含め、様々な形で情報発信をしてまいります。
23	参考	観光客が望んでいることに係る調査を実施しないで誘客できると考えているのか。	ご指摘のとおり、今後観光づくりを進めていく上でニーズ調査が必要になると考えています。観光客が求めていること、球磨村で実現できることを踏まえ、特色のある観光村づくりに取り組んでまいります。
24	参考	高齢者が若者に伝統食を伝える場などをSNSを使って情報発信してはどうか。または伝統食をふるさと納税の返礼品に入れてはどうか。	にぎわいの創出にはSNS等による情報発信が重要であると認識しています。ふるさと納税の返礼品につきましても、球磨村の伝統食など、特色のある返礼品の開発を行ってまいります。
5 復興に向けた計画体系 5-2-4【なりわい】山の暮らしと農林業・商工業の生業再生（P29～P30）			
25	その他	排水路の整備、治山砂防の計画はどうなっているのか	農業用施設や治山砂防施設につきましては、各地区の状況を確認し復旧工事を進めてまいります。
26	その他	治山工事を行い、すぐに避難できるようにしてほしい。※蔀地区～大野大橋間、国道219号線	
27	補足	高付加価値作物への転換とあるが、その作物は何か。これまで取り組んでいる振興物はどうなるのか。	今まで取り組んできた奨励作物については、継続して取り組んでいくこととしており、それに加えて、加工品の開発など稼げる農業の実現に向け取り組んでまいります。
28	参考	ジビエは環境資源の活用になるのではないかと。	復旧・復興を進めていく上で、地域資源を有効活用していく必要があると考えており、頂いたご意見を参考にさせていただきます。
29	補足	ワーケーション、リモート、ICT、スマート農林業の具体的な事業はないのか。リモートワーク出来る環境整備が必要。	ご指摘のとおり、ICTの活用には環境整備が必要となりますが、山に囲まれた球磨村で実現できること等、今後検討を進めてまいります。ICTの活用は地域の活性化に欠かせないものと考えており、具体的な事業化に向け関係者と検討してまいります。
30	参考	農水省では2050年までに全国25%の農地で有機農業を実現する旨を発表した。棚田農業の新しい方向性として検討してはどうか。	農業従事者の高齢化や担い手不足の中で、農林業の再生に向けた取り組みとして検討させていただきます。
31	参考	渡地域農業活性化協議会で動いているBLOF農法を導入する方がよほど予算をかけなくて将来的である。	
32	参考	セルロースナノファイバー、代替プラスチックに注目し産業を活性化してはどうか	地域経済の活性化や雇用の創出の観点からも、頂いたご意見を参考とさせていただきます。
33	既掲載	金融機関の設置してほしい。	金融機関も被災しており、現地再開に向け関係機関と連携して取り組んでまいります。

No.	取扱	意見概要	ご意見に対する回答
5 復興に向けた計画体系 5-2-5【そなえる】災害に強いむらづくりに向けた復旧と備え（P31～P33）			
34	既掲載	避難道路の設置、神瀬橋の復旧	避難道路においては、災害復旧の状況に応じて検討してまいります。 また、神瀬橋の復旧におきましては、権限代行により国が復旧工事を行うこととなっており、具体的な時期等は分かり次第お知らせします。
35	既掲載	球磨川水系緊急治水プロジェクトで各種治水対策がとられることが計画されている。国交省や県と連携して実施していただきたい。	球磨川水系緊急治水プロジェクトについては、国・県はもちろんのこと、流域市町村と連携して取り組む必要があると考えています。
36	既掲載	那良川、芋川、川内川、小川などの支流に新たな堤防を築いて欲しい。	球磨川支流における河川改修においては、国・県と連携し取り組んでまいります。
37	反映	急傾斜の地域が多く避難所として適当ではない。人命を守ることを主眼に場所の選定を行って欲しい。	安全な避難場所や避難ルートにつきましては、道路・施設等の復旧の状況に応じて適宜見直していく必要があると考えています。 また、今後整備を進める防災拠点につきましては、安全な立地での建設が重要であることから文言を修正しました。
38	既掲載	停電でも伝わる防災無線が必要	今回の災害では防災無線の基地局も被災し、情報伝達が困難な状況にありました。これを教訓として、様々な形で情報を届けられるよう情報手段の強化を図ってまいります。
39	既掲載	災害時に情報伝達がスムーズではなかった。災害時の情報が発信できるような手段を考えていく必要がある。	
40	既掲載	避難に対する意識付け・教育を徹底していく必要がある。	自主防災組織のネットワーク化や、避難訓練・防災訓練を実施することにより地域の防災力向上を図っていく必要があると考えています。 また、今回の災害の教訓を次の世代に継承していくためにも、防災教育の充実にも取り組んでいきたいと考えています。
41	既掲載	高齢化が進む中で、避難する意識を醸成するため、防災・減災を目指した啓もう活動を実施して欲しい。	
42	補足	水害の可能性のある地域に関しては水害保険の義務化をし、水害にあっても生活の再建用の資金が入る仕組みを作ってはどうか	義務化までは難しいと考えておりますが、加入促進に向け働きかけを行っていくこととしております。
43	補足	「地域コミュニティが～」とある。充実していなかったから今回のような結果になったのでしょうか。	今回のような災害の場合、公助だけではなく、自助・共助も重要となってきます。 自助・共助については、日頃からの避難訓練や防災訓練など、地域コミュニティを充実させていくことが重要と考えており、次の災害に備えるためにも、自主防災組織のネットワーク化など、地域の防災力向上を図ってまいります。
6 地域別の復興方針（P35～P46）			
44	その他	総合運動公園と村道栗林線の県道並みの整備	総合運動公園と栗林とを繋ぐ道は作業道と思われませんが、現地確認のうえお話を聞かせてください。
45	参考	茶屋一帯の遊水公園、運動公園、ラフティングの研修施設などとして利用できないか	今後示される治水対策を踏まえ、浸水区域の有効活用については、皆様の意見を聞きながら検討してまいります。

No.	取扱	意見概要	ご意見に対する回答
46	その他	一勝地(宮園JRカード下)の県道嵩上げ	JRの復旧や治水対策の内容にもよるところですが、頂いたご意見は県にもお繋ぎします。
47	参考	「いなびら」は時間を要する。「たかおと」を移転先にした場合、時間を要さないのではないか。	宅地の具体的な立地等(嵩上げの高さ等)については、今後示される球磨川水系緊急治水対策プロジェクトと連携し、早急にお示しできればと考えています。また、嵩上げの高さなどにつきましても、皆様の意見を聞きながら検討してまいります。
48	その他	神瀬中央部の嵩上げを住民に提案してもらいたい。住民間で様々な嵩上げ(8m嵩上げなど)協議したい。	
49	参考	候補地が川内川を挟んでいる所に不安が残る。神瀬2区から木屋角、上原までを候補地にしてはどうか。	
50	反映	総合グラウンド裏に、千寿園や避難機能を備えた体育館の建設 ※渡地区	防災拠点につきましては、避難所としての機能強化だけでなく、安全な立地での建設はもちろんのこと、避難所としての機能だけでなく、複合的な施設として利用できる施設として整備を進める旨表現を修正しました。
51	反映	神瀬地区に防災・救急のためのヘリポートの設置	
52	反映	神瀬に建設予定の地域防災センターに食堂と温泉、多目的スペースを備えて欲しい	
7 後期計画に向けて 球磨村の将来ビジョン (P47~P48)			
53	補足	将来のビジョンが本当に実現できるのか。総合計画との整合性は取れているか。	ビジョンでは、将来に向けた球磨村が進む方向性を示しています。行政だけでなく、住民と手を取り合って実現したいと考えており、総合計画で掲げる将来像に向かって取り組んでまいります。
54	参考	「田舎であって最先端の村」に向かって、ゼロカーボンについては再生と並行して進めて欲しい	災害からの単なる復旧に留まらず創造的復興を進め、球磨村として出来る様々な形でゼロカーボン社会の実現を目指したいと考えています。
その他(全体的な意見などお気づきの点)			
55	その他	部分部分が適合していても全体不適合では村づくりは成り立たない。	ご指摘のとおりと考えています。したがって、地域別協議会を行い、住民主体のまちづくりを進めていきます。また計画にある各事業を遂行する上で、住民の皆様の智慧をお借りする、協働をお願いすることになると思います。
56	その他	地域別協議会の立ち上げが遅すぎる。役場職員が住民の会合に参加し、話を聞いてくれるだけでも住民側は安心する。	地域別協議会の立ち上げにつきましては時間を要してしまい申し訳ございません。地域別協議会では役場職員も参加し、住民と一緒に話したいと考えております。
57	参考	地域コミュニティの規模縮小。点在している地区をひとつにまとめてはどうか。	村の将来を考えていくうえで、各地域・コミュニティのあり方については人口減少や医療・福祉など多角的に検討していく必要があると考えています。復旧・復興を進めていく中で、住民の皆様と意見を交わしながら検討してまいります。
58	参考	学校や警察、金融機関、行政システムを一か所に集約せず、広域災害時のリスクヘッジのために神瀬、渡、一勝地に分散すべき。	

No.	取扱	意見概要	ご意見に対する回答
59	その他	神瀬の住民集会での、今後の復興、嵩上げに係る説明会をして欲しい。	<p>3月中には各地区で村づくり懇談会を予定しています。コロナの状況にもよりますが、地域住民皆様に参加していただきたいと考えています。また、治水対策や安全な宅地の整備など合意形成が必要となることから、必要に応じて説明会等を実施していくこととなります。</p>
60	その他	球磨村の将来について、住宅の再建を含めて各地区に具体的な情報を提示して欲しい。	
61	その他	防災集団移転促進事業の説明を行って欲しい。	
62	その他	第二回村づくり懇談会には、区長、班長だけでなく、地域住民にも参加させて欲しい。	
63	その他	佐川急便、ヤマト運輸の球磨村への配達中止になっている。配達許可を当該会社をお願いして欲しい。	道路状況を見て各社で判断されることとなりますが、頂いたご意見は各社にお繋ぎします。
64	その他	国道沿いで浸水した地域は危険区域に設定されるのか。個別で判断、または地区ごとに判断されるのか。	<p>建築制限のかかる災害危険区域については、条例で定めることとされており、今後の治水対策等を踏まえ検討していくこととなります。</p> <p>また、設定にあたっては、一般的に地区での設定になると思われます。</p>